

持続可能な開発目標（SDGs）  
ステークホルダーズ・ミーティング資料

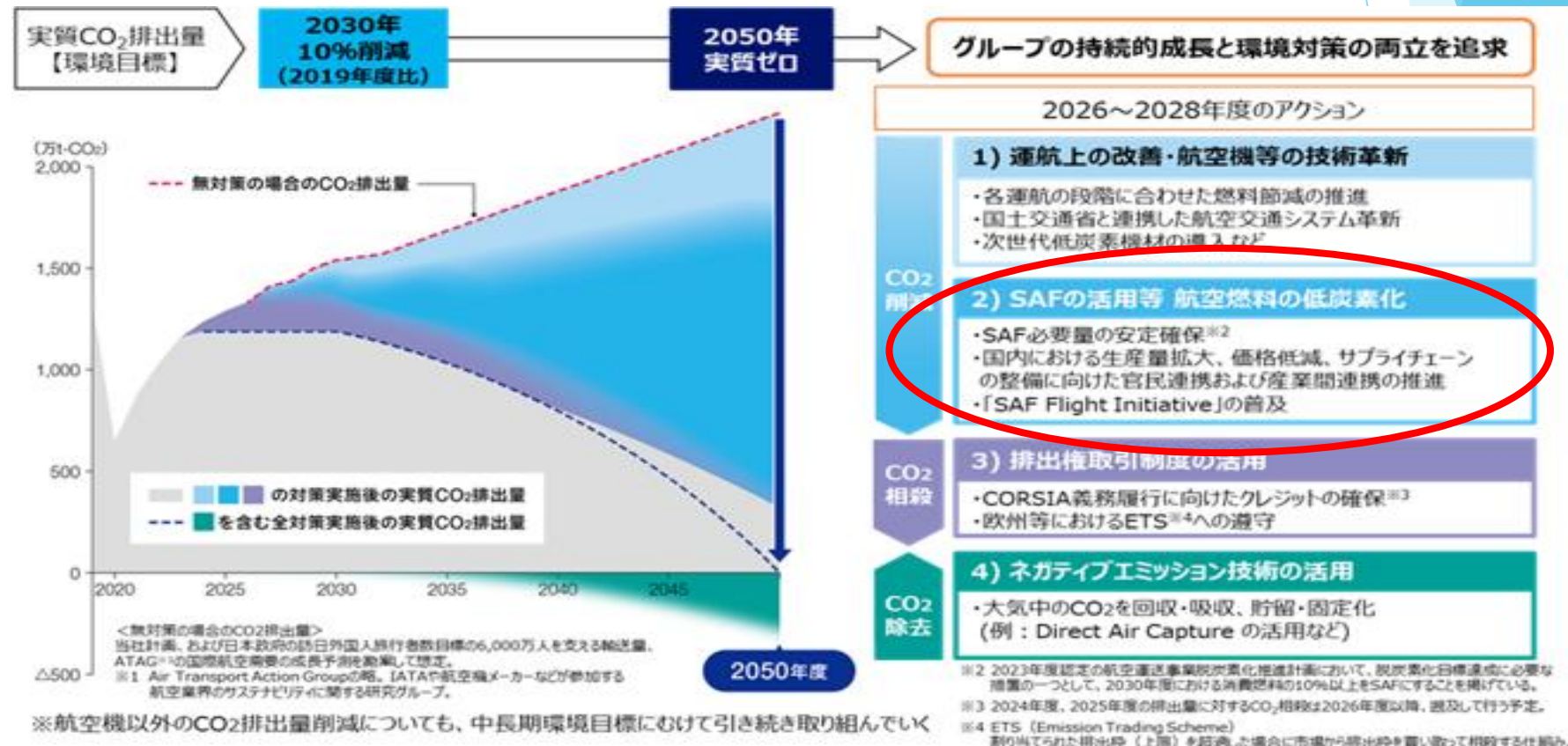
「持続可能な航空燃料（SAF）導入等によるCO2排出量実質ゼロ達成」  
「海の生態系保全の推進」に向けた取り組み



ANAホールディングス株式会社  
参与（SDGs担当） 宮田千夏子

# 航空機の運航で発生するCO2排出量の削減

	取り組み	2030年度目標	2050年度目標	2024年度実績	カーボンニュートラル戦略
1 CO <sub>2</sub> 排出量の削減	航空機	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 運航上の改善</li> <li>• 航空機などの技術革新</li> <li>• SAF<sup>※1</sup>の活用など航空燃料の低炭素化</li> <li>• ネガティブエミッション技術(NETs)<sup>※2</sup>の活用</li> <li>• 排出権取引制度の活用</li> </ul>	2019年度比 <b>実質10%以上削減</b> (実質排出量約1,110万トン以下)  消費燃料の <b>10%以上</b> を SAFに置き換え	実質ゼロ <sup>※3</sup>  8.9%削減 (1,123万トン)  0.1%未満	
	達成に必要な外部環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>• SAFの安定供給(量・価格)</li> <li>• 航空機などの技術革新(電気・水素航空機などの開発)</li> <li>• 排出権取引市場の環境整備</li> </ul>			
	航空機以外	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 施設、設備機器の省エネルギー(省エネ)化と老朽化更新</li> <li>• 再生可能エネルギーの活用</li> <li>• 空港車両の更新時にEV(電気自動車)・FCV(燃料電池自動車)化を促進</li> </ul>	2019年度比 <b>33%以上削減</b>	実質ゼロ  20.5%削減	
	達成に必要な外部環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 再生可能エネルギーの供給拡大</li> <li>• EV・FCV化のための空港インフラ整備</li> </ul>			



## SAF（持続可能な航空燃料）は航空業界の脱炭素化の切り札

- 従来のジェット燃料と比較して、原料の調達から燃焼までのライフサイクル全体でCO2排出量を最大約80%～90%削減
- 既存の航空インフラをそのまま利用可能
- 2024年時点の世界のSAF供給量は、約130万KL（世界のジェット燃料供給量の0.3%程度）
- 2～3倍の調達コスト



官民の連携を進めるとともに、「将来的なサプライチェーンの構築」や「SAFの安定供給と利用促進」に向けて取り組みを進めている

### 持続可能な航空燃料（SAF）導入促進に向けた官民協議会

関係省庁、石油元売会社などの供給側も含む官民協議会を通じて、国際競争力のある国産SAFの開発・製造を推進し、将来的なサプライチェーンの構築に向けて、技術的・経済的な課題や解決策を官民で協議し、一体となり取組を進めている

### 国産SAF（持続可能な航空燃料）の商用化および普及・拡大に取り組む有志団体「ACT FOR SKY」を設立

国産SAFに直接関与する企業、サプライチェーン構築に必要な企業や自治体がその枠を超えて行動するムーブメントを創出し、国産SAFの商用化と普及・拡大を目指す





# チーム美らさんご

<https://www.tyurasango.com/>

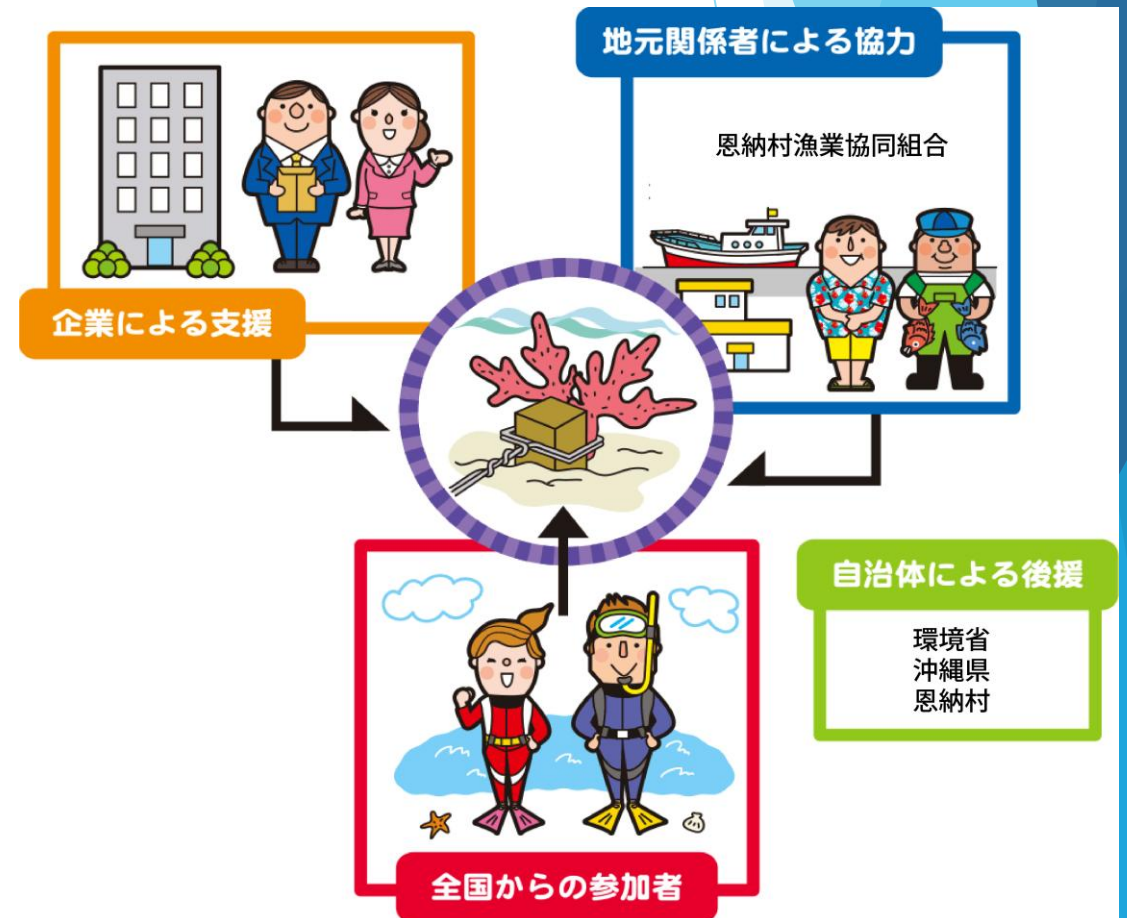
サンゴの苗の植え付けプログラム等の啓発イベントを通じて、沖縄県恩納村のサンゴ保全活動を行うとともに、「美ら海を大切にする心」をより多くの人々に広げることを目的に活動を実施

## 2004年沖縄県内外の企業が集まって「チーム美らサンゴ」を結成

恩納村漁業協同組合の協力や、環境省・沖縄県・恩納村などの行政の後援を受けながら、生物多様性の宝庫であり、観光資源でもあるサンゴの保全に取り組んでいる

### 活動概要

- 植え付け・苗づくり活動  
年5回、春と秋に実施  
恩納村漁協が恩納村海域から採捕したサンゴをドナーとして育成  
ドナーから育成したサンゴの苗を植え付け活動に使用
- 啓蒙活動  
沖縄県恩納村の海で起こっていることを一人でも多くの方に知っていただくため、サンゴの保全活動を実施







# チーム美らさんご

<https://www.tyurasango.com/>



- 2004年より活動を開始し、2024年に活動20周年を迎え、これまでに4,652名が参加、19,532本のサンゴの植え付けを実施
- 2024年7月ごろから沖縄本島周辺でサンゴ白化の報告が相次ぎ、チーム美らサンゴの植え付けエリアの恩納村万座湾周辺でも8月後半～9月後半にかけて白化現象が発生  
＊これまで経験したことがない大規模な白化
- 大半のサンゴが死滅している中、ところどころに懸命に生きているサンゴを見つけ、救い出したサンゴのDNA解析が実施され、親サンゴとしての育成を再開  
＊これらのサンゴは高温に対する耐性を持っている可能性があり、将来への希望
- これまでチームの協力者である恩納村漁業協同組合が20年以上培ってきたサンゴ育成の豊富な経験・スキルをもとに、引き続きサンゴモニタリングによる観察と記録、生き残ったサンゴを守り、恩納村のサンゴ回復に協力していく

